

令和元（二〇一九）年度日本及び東洋美術の調査研究報告（最終）

著者	中谷 伸生，日本東洋美術調査研究班，高 絵景，曹悦，田邊 咲智，？ 継萱
雑誌名	関西大学博物館紀要
巻	26
ページ	105-145
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00020239

廈門王爺祭りの展示について

邢 継 萱

はじめに

王爺信仰は、中国の文化資産として、民間信仰において重要な位置を占めている。特に、中国東南部地域では、王爺信仰が「風靡している」と言つてよいほどに盛んである。王爺信仰を中心とする祭祀は、「王爺祭」と称され、祭祀を行う時、とりわけ王爺祭りの最後、すなわち、祭祀の最高潮とされる「焼王船」という祭祀活動に参加する数多くの人々は、本土の信者だけではなく、海外からの観光客の姿も見られる。「王船」は、災害や疫病を退散させるための王爺祭祀に不可欠な法具であるという。しかし、王船の建造過程においては、細部と素材の関わりや禁忌が多くあるため、王船の文化価値と各部分の意味を完全に理解するのは、一般民衆や信者にとって決して簡単とはいえない。

廈港海洋歴史文化展示廳で展示されている当地の文化は、海に関わる人間活動と密接な関連がある。博物館は文化展示に関わる場所として、大衆に過去の歴史を語り、過去の歴史の沿革や生活状況を展示する。文化のアイデンティティと歴史認識を説明するため、博物館展示においては、地域活動と博物館の関係性は重要である。学校教育とは異なつた社会教育施設としての教育現場と考えられる博物館の価値を、どのように

来館者に伝えるかは、博物館展示の重要な出発点でもある。「文化」という抽象的な概念・内容を具体化する展示を通じて、観客に「文化」を広く体験させるため、博物館で展示される「文化」には、人間と地域関係、社会文化、文化現象、歴史的経験などが含まれている。王爺祭りについて疫病を退散するために祭祀で神霊の交通道具と使われる王船の造形は、歴史の洗礼を受けて古代船の特徴を保有しており、当地の海洋文化の特色を反映するのであろう。王爺祭りの博物館展示では宗教信仰の内容のほかに、伝統的な民俗芸術や儀式用品の歴史と伝承も含め、これらの内容によって民衆生活の典型的な文化的特色が含まれている。

廈港海洋歴史文化展示廳について

廈港海洋歴史文化展示廳は地方文体局によって設立され、主に当地の民間信仰文化を展示している。展示場では、実物の資料や写真の展示が約200点あり、12個の大きな「王爺祭」の解説板が構成されている（写真1）。

館内では、王爺信仰の発展源流を巡って、王爺信仰と関連する文献と写真が展示されている。展示場では、王爺祭りで使用される器具、書物、衣類、日用品、炊事用具、食物やその他小物などの儀式用品がみられる（写真2）。このような静態的展示を通じて、図と文の解説に合わせ、王爺祭の儀式で出現した民俗芸術と知識を観客へ紹介している。

展示項目は、王爺祭りを中心としているのだが、色の違いやバックのグラフィックなどでまとめあげられている。この展示は、写真や文字説



写真1 王爺祭の解説板



写真2 儀式用品

明がすべて12個の解説板の中に盛り込まれて簡潔に説明されている。このようなパネルでは、さまざまな情報が厳選され整理されている。来館者は、自分の興味関心に応じて、展示の内容を容易に読み、理解を進めることができる。

中央展示場では大きな王船模型が設置されている(写真3、4)。この王船は長さ10・58メートルで、福建省南部で最大の観賞用船である。この王船の特色が船の全身に飾れる民俗の色絵であり、各細部に描かれる色絵へのこだわりと、王船の帆柱、船体、船尾、船室、さらに王船に載せられる物品にも意義がある。しかし、この「観賞用王船」に対する解説が簡単な文字説明のみであることが少々残念だと考えられる。

展示場の向こう側では往年の神事を行う港湾―沙波尾の歴史を展示している(写真5、6)。展示廳



写真3 観賞用王船



写真4 王船細部の様子

が長期に収集保存している沙波尾と関連する文物と写真が展示されている。静態的な展示方式で展示場の壁には、送王船の民族活動、一九七〇年代廈門港のアメリカ軍艦、廈門の港湾図、龍舟競漕など、当地に関わらず古代から現代までの様々な展示品と写真を揃えている。しかし、一部分の写真の説明札では単に写真のタイトルを書いているだけ



写真5 船に関わる展示品



写真6 過去の祭り情景

けで、一般人にとってこのような解説は簡単すぎて、詳しい内容を理解できないかもしれない。館内の展示は、王船に乗せる生活用品、食べ物、文房具などが並べられて遠くから見ても目立つので、「実体の船」と、観客たちが必ず近くまでやってくる。一方、館内の向こう側の写真は、残念ながら注目度が低かった。この状況は改善が必要な部分と考える。

おわりに

文化とは、人間社会のなかで生まれ、発展するものである。王爺祭りは中国東南地域で生まれた一つの特別な信仰文化である。廈港海洋歴史文化展示廳は、沙波尾の地方特色を示し、地域の信仰を中心に展示している。

沙波尾王爺祭りに関わる写真と実物の展覧を通して、歴史と技術から祭りの発展経緯を図解している。展示内容は、沙波尾をベースにして、この地区についての発展を含め、当地の生活に基づいて忠実に再現された。王爺祭りの主たる展示目的は、王船の実物に限らず、さらにこのような一般民衆に注目されていない儀礼事項と儀礼の意味を観客へ伝えることだと思われる。この展示は、王船の模型や王爺祭りの画像資料などの王船にかかわる実物を巡って行われる。だが、民俗信仰文化の特殊性をもつ王爺祭祀の展示にとっては、民衆が参加できない「焼王船」前の事前作業と儀礼実践は、王船展示の欠かせない部分、すなわち王船文化を大衆に普及するため開かれた王船展示の目的だと言えるであろう。王船自体だけでなく、祭祀活動で不可欠な事前作業と儀礼実践及び儀礼の意義のような無形文化についての展示内容はもう一つの注意すべき点である。

博物館で展示される内容は、人間と地域関係、社会文化、文化現象、歴史的経験などが含まれ、単にモノの陳列としてではなく、そこにさまざまなことが集い、過去の生活様式、価値観などがかわり、新たな文化と社会を再現する場所となることであろう。現在の王爺祭祀の儀礼事項は過去より繁雑で、時代の変遷とともに新たな内容を付け加えられていることが明白である。それが廈港海洋歴史文化展示廳の特色と言えるし、博物館と地域のつながりであると思われる。ここでは博物館などの施設の活用方法など、学ぶべき点が多いと考えられる。

